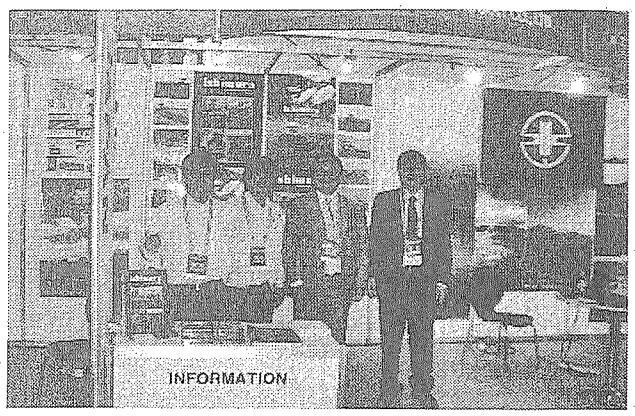


同社がパネル展示を行ったブース。左端が同社の石村社長、右端が北農工の原専務理事

ヘビーカルチなどに注目
韓国の博覧会で展示

石村鉄工

石村社長

㈱石村鉄工（石村聡英社長・北海道上川郡美瑛町扇町）は、10月5から9までの5日間、韓国の全羅南道（南西地区）で開催された「国際農業博覧会in Korea」に出展し、パネル展示を行った。

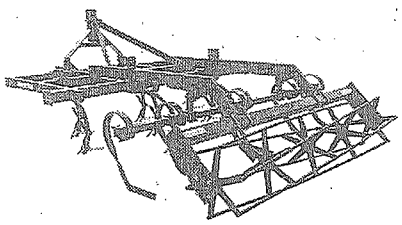
同展は、韓国企業のほか、海外から14カ国・約100数社が出展し、同社は、一般社団法人北海道農業機械工業会などと「JAPANブース」として展示を行った。

韓国は米への依存度が高く、「水田用ヘビーカルチ」をはじめ、幅広く注目を集めていた。農場70㌶とレストランを経営している農業経営者からも興味を持たれており、今後が楽しみである。

また、昨年、理想的な播種床を造成する「ヘビーカルチ」をモデルチェンジして発売。湿田を乾かす作業や、高能率な粗耕起の作業に最適なことから、水田農家からも注目を集めている。

「ヘビーカルチ」は、フレームとタインという極めて簡単な構造のため、ロータリーハローに比較して経済的。タインは特殊なバネ鋼であるため、硬い耕地や石の多い耕地でも、シェアボルトなしで作業ができる。

圃場の土質に合わせて、丸棒の脱着が可能で、オプションによりケージ・ローラーをスパイラル・ローラーなどに交換できる。



注目を集める「ヘビーカルチ」

「ヘビーカルチ」は、透水性、保水性、通気性が高く、養分供給能力、養分保持能力、有機物分解能力、微生物活性力に優れた「活力ある土づくり」に貢献することから、幅広く期待を集めている。

主な特徴は次の通り。

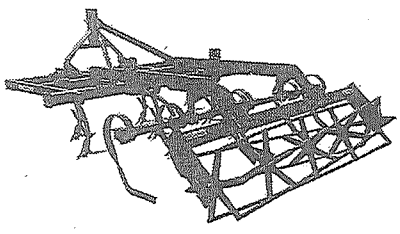
①ロータリーハローと比べ作業速度が速く、通気性が良くなるため、地温が上がり土が乾き、耕盤を作らない②PTOを使用しないため、燃料費が安く、ランニングコストがかからない③保水性、透水性、通気性に優れ、作物の生育が天候の不順に左右されにくい④肥料効果を高め、雑草の再発を防ぎ、土の粒子をつぶさず、土壌を硬化させない。

石村鉄工

ヘビーカルチ 水田仕様が好評
土付き・詰まりが少ない スター型ローラー

㈱石村鉄工＝北海道上川郡美瑛町扇町・☎0166(92)2278・石村聡英社長＝のヘビーカルチ「TRIO」の水田仕様が、湿田や乾きの悪い畑でも、クローラー／ハーフクローラートラクターでの作業を5～20㌢耕深を高能率に作業を行い、より早くほ場を乾かすことから好評を博している。

それを実現したのが、ローラー部全体にひねりを加えたことで土付きや詰まりが少ない新ケージローラー「スター型ローラー」（特許・意匠は出願中）。これまでヘビーカルチは畑作用の粗耕起で腐食促進や整地、砕土の効果が得られることから好評を博してきたが、湿潤圃場での利用したいとの声が上がったことから考案されたもの。



湿田や乾きの悪い圃場での作業に最適

希望小売価格（税込）は、作業幅2・5㍍で8本爪、クランプラー付で80馬力適応ー付で100馬力適応のVSIK－T8Sが95万5500円。作業幅3㍍で10本爪、クランプラーVSIK－T10Sが115万5千円。

国際農業博覧会 in korea

農機関連3社出展
石村社長のレポート

国際農業博覧会in KOREAが10月5～29日の25日、韓国・全羅南道光州市の農業試験場で開催され115万人が来場した。同展示会は昨年まで道単位での開催をしていたが、今年から国際展としてリニューアルされたもので420社が出展。農機関連では韓国5大メジャー企業を含む59社が出展。海外から14カ国100社が出展する中で（一社）北海道農業機械工業会と㈱エフ・イー、㈱石村鉄工の3社が招聘され5～9日の5日間、ジャパンブースとしてパネル展示した。

今回は出展者の1人である石村鉄工の石村社長のレポートを紹介する。

昨年までは全羅南道の博覧会だったが今年から国際展とし、数年前より準備を始め、私達は招待を受け参加する事となった。韓国実行部も慣れていない印象を受けたが、経費もかけ世界各国から招待し力を入れている姿を感じた。

会場がある光州市は、人口約140万人、東西に地下鉄があり韓国らしい市街。会場は普段は農業試験場であり、外の空き地と、イベント会場、大駐車場で面積が広い。

韓国農業は、平均耕作面積は約1・5㌶と小規模経営が主で、米への依存度が高く、農家人口の高齢化が著しいことなど日本農業と共通した点が多い。一方、農村の兼業機会が少ないが高齢専業農家が多く、農業の担い手確保や農地対策面で独特の課題を抱えている。

農業生産物は、米を中心とする穀物類や野菜、果実、花きの順。畜産は自給率ベースで牛肉42％、豚肉90％、鶏肉76％位であり、牛肉は豪州からの輸入が主なのが意外だ。

出展のきっかけは、過去に韓国には輸出していたが、最近は円高ウォン安で買い手が付難いことから、広くPR出来ればと思い参加した。

初日のオープニングセレモニーは準備の為に誰も参加出来なかったが、次から次とお客様が来て説明するのが忙しかった。場所がら試験場関係の人々が多く来場された。一般来場客にも農場70㌶とレストランを運営する農業経営者が興味を示し名刺交換した。今後の展開が楽しみだ。

北農工・原専務㊨らと共にPRする石村社長㊧

日本ブースも盛況

上：「農経しんぽう（2012年11月12日）」

左：「農機新聞（2012年11月13日）」